

2月3日
・4日

市シルククラブ連合会 作品展・芸能発表会



市シルククラブ連合会の作品展と芸能発表会が、生涯学習センターで開催されました。同会は、市内42の高齢者クラブで組織する団体です。作品展には、趣味やグループ活動で作った手芸や写真、書画など118点が出品。また、4日には芸能発表会が行われ、会員の14団体が合唱や舞踊、フォークダンスの演奏などをホールで披露しました。

2月5日

新春を彩る雅楽の調べ ニューイヤーコンサート

市文化協会主催のニューイヤーコンサートが、かぶら文化ホールで開催されました。雅楽師の東儀秀樹さんが箏・筑などの雅楽器を使い、第1部では「越楽幻想曲」「朧月夜」などの伝統的な曲を演奏。第2部では「星に願いを」「ハナミズキ」などのポップスを中心に演奏し、雅楽器の持ち味を生かした独自の調べで観客を魅了しました。



東儀秀樹さん



第24回富岡市エースドッジボール大会が選手関係者約600人を集め、市民体育館で開催されました。大会は小学生の部16チーム、一般の部8チームで行われ、おどろの観客の声援を受け、熱戦が繰り広げられました。入賞チームは次のとおりです。(丸文字は順位)

- ▽小学生の部 ①小野A ②高瀬A ③吉田 ③妙義A
- ▽一般の部 ①一ノ宮 ②小野 ③額部



2月12日

熱戦相次ぐ エースドッジボール大会

2月3日

豆まきで鬼払う 貫前神社で節分祭



貫前神社で毎年恒例の「節分祭」が行われました。楼門の東側にある神楽殿に上がった地元の住民や保育園児が、「鬼は～外」「福は～内」と声を上げながら豆まきを開始。厄除け・開運・家内安全を祈って放られた豆などは、集まった人たちが競い合いながら拾っていました。

2月11日～
3月12日

郷土ゆかりの作家を広く紹介 コレクション展

「コレクション展・郷土ゆかりの作家たち」が美術博物館で開催されています。同館が収蔵する郷土作家関係の作品は230点以上あり、今回はそのコレクションの内、30点を公開。作品は「群馬の風景」「色と形」「社会へのまなざし」「ひとを描く」に分けて紹介され、郷土ゆかりの作家の優れた作品に触れる機会となっています。会期は3月12日(日)まで。



2月3日
～26日

はかり 秤から知る製糸の歴史 富岡製糸場資料展

富岡製糸場の首長館(ブリュナ館)で資料展「はかり・しらべる」が開催されました。富岡製糸場に収蔵されている秤や水分検査器など、生糸の製造工程で使われたさまざまな計測器具の実物や写真パネルを展示。富岡製糸場の歴史と製糸工程(生糸づくり)を学ぶことのできる資料展になりました。また、普段は非公開である首長館の内部を見学できる機会ということもあり、期間中は多くの人が訪れました。



2月19日

まなびのつどい・生涯学習フェスティバル 日ごろの学習の成果を発表

「まなびのつどい」が生涯学習センターで開催されました。第1部「顕彰」では、生涯学習推進標語コンクールの最優秀賞、生涯学習功労賞、青少年健全育成功労賞の顕彰が行われました。第2部「発表と体験」では、中学生による作文朗読や各種団体による学習成果をステージで発表。絵手紙や籐工芸などの体験コーナーも設けられました。第3部「歌舞伎ことはじめ」では、舞台芸術21ネットワークの皆さんが歌舞伎の動きや掛け声などを実演と体験を交えて分かりやすく紹介しました。



体験コーナー「絵手紙」

生涯学習推進標語コンクール 最優秀賞

「学ぼう知ろう
いくつからでも
いくつになっても」

高瀬小4年 岩井佑太くん



2月3日
～12日

よみがえる！とみおか 富岡市内出土品展



「富岡市内出土品展」が、美術博物館市民ギャラリーで行われました。富岡製糸場の展示では、これまでの調査で見つかった出土品を「富岡日記」(著:和田英)の内容に関連付けて展示。また、大きな縄文土器など平成28年度に実施した発掘調査の成果を展示しました。会期中は、ギャラリートークや遺跡説明会、挑戦コーナーやクイズなどのイベントも開催され、訪れた人たちは楽しみながらいしへの暮らしに思いをはせました。



挑戦コーナー「まが玉づくり」

2月11日

富岡製糸場元従業員が集う ネットワーク交流会



富岡製糸場元従業員ネットワークの第1回交流会が富岡製糸場の食堂で開催されました。同ネットワークは富岡製糸場での労働や生活環境の解明とその記憶を後世に引き継ぐことを目的に、昨年11月から富岡製糸場で働いた経験のある元従業員の登録募集を開始。今回の交流会にはネットワークに登録した32人(11日時点)のうち、19人が参加しました。参加者らは、かつての職場に戻り、同じ職場で働いた人々と交流する中で、当時の思い出話を花を咲かせていました。